

8. 連携市町・地域の声

○教養ゼミ体験授業への改善意見・提案など

・良かったところ

新製品酒粕アイスの共同開発によって、地域貢献・活性化に対する機運が醸成された、打合せがスムーズに進んだ、多くの学生が地域を知り愛着を持つきっかけになった、海岸清掃に取り組んでもらった、まじめに作業できた、実施時期や学生の参加数

・改善が必要なところ

国の補助金がなくなった後の財政基盤の安定、受け入れ先の開拓、海藻塾の主な活動期と体験授業の時期のマッチング、より深く知ってもらうためもっと時間が必要、農業体験の話も検討したい、どのように感じたのか、知りたい時間が短い

○インターンシップへの改善意見・提案など

・良かったところ

多様な学生学部が参加した。インターンシップの後も何らかの交流。教ゼミからインターンシップへとステップアップのシステムがある。受け入れ先と学生のニーズのマッチングがうまく行われている。インターンシップでは、より深く地域課題に取り組める。地域などいろいろ知ってもらえる。1次産業の大事さを理解して欲しい。新製品のモニタリングをしてもらった。まじめで意欲的。

・改善が必要なところ

受け入れ先の負担も有り、大学の近場でインターン先を増やすこと。学生のニーズを把握したい。インターンシップの期間が夏休みなので、体験内容に限られる。天候に応じた研究計画、地域の魅力を持って帰ってもらう。開発過程を聞いてもらう時間が欲しい。

○今後も支援の継続は可能ですか

市としても引き続き連携したい。調整は、引き続き行った行きたい。現在の支援内容であれば継続は可能。人的な支援は十分可能。必要材料などは大学負担で。宿泊場所の確保。官民一体の取組。前向きに対応したい可能です。

○体験授業やインターンシップの連携は円滑に進んでいますか

市内の酪農家との連携が進んでいる。一定の成果が認められる。新規の開拓も必要では。窓口が一本化されており円滑に進んでいる。インターンシップを有効活用して欲しい。行政との一体的推進が必要か。インターンシップに積極的に実施していきたい。新製品の道の駅でのアンケート調査をしてもらった。

○地の拠点は計画通り（順調に）進んでいますか

教育面で成果が見られる。地域貢献面ではもう少し時間を要する。学生教員との継続した関わりが理想である。進んでいる。行政の取組に期待。インターンシップの要請が欲しい。農園の課題を体験作業に取り入れてもらっている。

○地域志向教育の推進で地域に貢献する人材が増加すると感じますか

一定の成果が見られる。学生の心に残るような体験を整備していく必要がある。現地を自主的に訪れている。また来たいと学生が意思表示している。学生の意見を聞き行かせれば、地域志向が高まる。期待しているが、卒業後の活動拠点になるか。

○地の拠点の地域志向取組は、大学の改善・改革につながっていると感じますか

教員と地域の接点が増えている。地域の声や空気を直接感じる新しい学びがある。地域で感じることは多い。地域志向の豊かな感性が身につく。これまでになかった取組で、感心しています。

○地の拠点の取組は、地域のための大学として満足するものですか

一定の成果があるが、地域へのインパクトはこれから。酒粕アイスの共同開発・販売という成果が生まれている。教員は熱心、学生が追随できているか。どこでも、我々を思い出して欲しい。地域を活性化する活動はすばらしい。

○大学と取り組みたい地域課題・相談したいこと

今後、協力をお願いすることがあると思う。ふるさと農背の返納品のバリエーション追加に学生や大学と連携したい。アカモクの成分分析や機能性の解明。県央地域のネットワークづくりに学生の目線、力を借りて取り組みたい。

町を若返らせて欲しい。体験学習などの大学側評価を聞きたい。世羅町の希少動物調査・分布図の作成。人口減少対策と交流人口の増加対策。